

東アジアにおける文化交流のあり方 について

平成22年4月8日

文化庁

目次

1. 国際文化交流の枠組み

- (1) 国の機関
- (2) 地方公共団体
- (3) 民間団体
- (4) 東アジアにおける既存の交流枠組み

2. 国際文化交流の実績

- (1) 舞台芸術交流実績
- (2) 映画の交流実績
- (3) 文化財保護協力実績
- (4) 人物交流実績
- (5) 海外展・国内展
- (6) 博物館交流実績
- (7) 姉妹都市数
- (8) 民間交流の事例

3. ニーズ

- (1) 交流年・周年事業一覧
- (2) ASEAN主要6カ国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)意識調査結果
- (3) 訪日動機
- (4) 各国で人気の日本文化
- (5) 日本で人気の各国文化

4. 取組みの視点

1. 国際文化交流の枠組み

(1) 国の機関

文化庁

「文化庁は、文化の振興及び国際文化交流の振興を図る」(文部科学省設置法第27条)

外務省

「文化その他の分野における国際交流」に関する「外交政策に関わること」(外務省設置法第4条第1号二)及び「外国における日本文化の紹介に関すること」(同第16号)

国際交流基金

「国際文化交流事業を総合的かつ効率的に行うことにより、我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進し、及び文化その他の分野において世界に貢献し、もって良好な国際環境の整備並びに我が国の調和ある対外関係の維持及び発展に寄与することを目的」(独立行政法人国際交流基金法第3条)

観光庁

「観光庁は、観光立国の実現に向けて、魅力ある観光地の形成、国際観光の振興その他の観光に関する事務を行うことを任務とする。」(国土交通省設置法第43条)

その他

経済産業省はコンテンツ産業の振興の観点から、総務省は地域振興の観点から、農林水産省は日本食普及の観点から、国際文化交流に関する事業を実施。

(2) 地方公共団体

県庁国際課

地域国際化協会

各都道府県に存在する国際化を目的とした事業を実施する団体(ほとんどが財団法人)。在住外国人に対する日本語講座、留学生支援、国際理解・教育事業(外国人住民との交流事業を含む)等を実施。

(財)自治体国際化協会(CLAIR)

地域における国際化を支援し、一層推進するための地方公共団体の共同組織として、1988(昭和63)年に設立。東京に本部、各都道府県・政令指定都市に支部を置くほか、世界の主要都市に海外事務所を設置(ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京)。JETプログラムの推進のほか、地方公共団体の海外との姉妹提携等自治体間の交流活動を促進。

(財)地域創造

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを目的として、全国の地方団体等の出捐により1994(平成6)年に設立。地方団体が主体的に取り組む文化・芸術活動を通じた地域づくりの事業を財政的に支援する他、財団の自主事業として人材育成や公立文化施設の活性化を図る事業など、多彩なプログラムを実施。

(3) 民間団体

○日本中国文化交流協会

日中両国間の友好と文化交流を促進するための民間団体(任意団体)として、1956(昭和31)年に設立。文化各分野の交流のための代表団の相互往来を中心に、舞台公演、映画会、音楽会、各種展覧会、学術討論会の相互開催等の活動を展開。

○(NPO法人)日韓文化交流協会

日本、韓国両国の伝統ある芸術、文化、教育、福祉の各分野における社会活動と民間交流を機軸とし、国際的に幅広い民間交流と社会福祉活動を推進し、日韓両国並びに近隣諸国の融和と潤いのある地域社会の構築と発展に寄与することを目的に、2007(平成19)年に設立。演奏会、展示会、音楽芸術文化交流会、各種シンポジウム等を実施。

○(財)日韓文化交流基金

日韓両国民間の文化交流を強化し、相互理解と信頼関係を築くことを目的に、1983(昭和58)年に設立。青少年の派遣・招へいや国際会議や芸術交流を対象とした助成活動を実施。

○(財)日本・ベトナム文化交流協会

日本とベトナムの文化交流を通じて両国と両国民の永遠の友情を確立し、世界の平和に貢献することを目的に1991(平成3)年に設立。日越文化交流親善大使の派遣や演奏会の開催等を実施。

○その他

各国との間で同様の協会等が存在している。

(4) 東アジアにおける既存の交流枠組み

- 日中韓文化大臣フォーラム (2007年開始、2010年に第3回を奈良で開催予定)
- ASEAN+3文化芸術担当大臣会合 (2003年開始、2年に1度開催)
- アジア芸術フェスティバル (1998年開始、中国において開催)
- 日中文化交流政府間協議 (1980年開始、随時開催)
- 日韓文化交流局長級協議 (1983年開始、定期的に開催)
- **ICOM-ASPAC (International Council of Museums Asia-Pacific Alliance: 国際博物館会議・アジア太平洋地域委員会)**
(1967年設立、随時開催)
- ASEM文化大臣級会合 (2003年開始、2年に1度開催)
- APEC知的財産権専門家会合 (1998年開始、年2回開催)

日中韓文化大臣フォーラムにおける宣言

【南通宣言】

2007年9月20日（中国南通市）

- 世界の文化の多様性を尊重し、三国の優れた文化伝統を保護し、発展させるために絶え間なく努力する。
- 対話と協力の精神に則り、三か国間の文化交流を強化し、文化という精神の架け橋を通じて、三か国国民の相互理解と信頼を促進し、三か国国民間の友情を構築し、発展させ、ひいては三か国の善隣関係及び自由と繁栄を促進する。
- 世代にわたる友好に着目し、三か国青少年間の文化交流を強化し、相互の友情を深める。
- 文化と学術交流分野をはじめとする様々な分野で協力を展開し、文化遺産の保護と継承に共に努力する。
- 文化産業分野における日中韓三か国の協力を強化し、新しいものをつくり出す精神を提唱し、知的財産権を保護し、文化コンテンツ産業を本地域の経済発展の持続的な動力にする。

【濟州宣言】

2008年12月25日（韓国濟州島）

- 文学、公演、展示、芸術教育分野など、文化芸術分野における共同制作及び人物交流は、現世代だけでなく、次世代の協力的な共同体関係の構築に寄与するという観点から、これを強化していく。
- 次世代の中心産業として重要性が増している文化産業分野における交流・協力を強化する。また、文化産業発展の基礎である著作権の重要性を認識し、著作権分野での交流及び協力強化に共に力を注ぐこととした。
- 三か国は自国の文化遺産を保護・広報し、各国の文化が世界的に高く評価されるよう、協力を強化する。また、アジア太平洋無形文化遺産センターの設立に協力し、文化遺産保護技術の共同開発及び共有のために共に努力する。
- 日中韓三か国は、気候変動のような地球規模の課題の重要性にかんがみ、環境保護に配慮した芸術創作活動の推進に努力する。

2. 国際文化交流の実績

(1) 舞台芸術交流実績

- 我が国から外国に行った団体の**4割弱**がアジア地域で公演を実施
- 我が国で公演を行った外国団体の**1 / 3**がアジア地域からの団体
- 文化庁より**アジア諸国に派遣する舞台芸術**では、**演劇や舞踊が多く伝統芸能は少ない**(対欧州の場合、伝統芸能が一定数存在)。

(2) 映画の交流実績

- 国際交流基金及び文化庁による日本映画の外国での上映会は、**4割がヨーロッパ**で実施。**アジアでの実施は3割弱**。
- 日本において上映された外国映画は**北米とヨーロッパ作品が8割**を占めている。**アジア作品は全体の15パーセント**。

(3) 文化財保護協力実績

- 文化財保護では有形、無形双方の分野で**東アジア各国と緊密な連携**が図られている。

(4) 人物交流実績

(イ) 招へい

- 文化庁では過去3年間に**145人**の外国人芸術家や文化関係の専門家等を招へいしており、**うち、アジア地域から108名**を招へい（著作権関係者69名、文化財関係者19名、美術館博物館関係者7名など）
- 国際交流基金の招へいでは、過去3年間**83名**の招へいの**うち、アジア地域から21名**を招へい。

(ロ) 派遣

- 文化庁の新進芸術家海外研修制度では過去3年間に**438名**を派遣しており、**アジア地域には12名**を派遣（分野は演劇、メディア芸術、アートマネジメント、彫刻、映画、鑄造）
- 文化庁の文化交流使事業では、2003年の事業開始後、延べ**156**の個人・団体を派遣しており、**アジア地域には延べ26**の個人・団体を派遣。
- 国際交流基金の日本文化紹介派遣では、過去3年間で延べ**151名**を派遣しており、**アジア地域には延べ19名**を派遣（分野は「からくり」「金属工芸」「陶芸」「カルタ」「武道」「将棋」「折り紙」「ダンス」「奇術」「写真」）

(5) 海外展・国内展

- 文化庁主催海外展は過去**71回中アジア地域で7回**開催。
- 国立博物館・美術館で過去3年間に開催された**43件の特別展中、アジア関連は8件**。

(6) 博物館交流実績

- 博物館関係では、政府レベル、館レベル、研究者レベルの各段階において、**アジア諸国との交流が活発に展開**。

(7) 姉妹都市数

- 地方公共団体が**姉妹都市協定を締結する先はアジアが1番多い**。

(8) 民間交流

- 東アジア地域での**アニメ・マンガ人気は高い**。また、**日本食も高い人気**を得ている。他方、映画は韓国やタイで人気が高いものの、その他の国にはさほど浸透していない。

3. ニーズ

(1) 交流年・周年行事一覧

○2010年

アジア

日ラオス外交関係樹立55周年

上海万博

日ミャンマー外交関係樹立55周年

日本・カンボジア間友好条約55周年

大洋州

日キリバス外交関係樹立30周年

日PNG外交関係樹立35周年

日トンガ外交関係樹立40周年

日フィジー外交関係樹立40周年

北米

日米安全保障条約署名50周年

中南米

日墨交流400周年(～日本からメキシコへ～)

日セントルシア外交関係樹立30周年

日セントビンセント外交関係樹立30周年

日バハマ外交関係樹立35周年

日グレナダ外交関係樹立35周年

日スリナム外交関係樹立35周年

日セントキッツ外交関係樹立25周年

欧州

日・キプロス修好50周年

日ポルトガル修好150周年

中東

2010年トルコにおける日本年(日トルコ友好120周年)

日アフガニスタン国交樹立80周年

アフリカ

アフリカの年50周年

○2011年

欧州

日・EU行動計画10周年(2010～2011年)

日独交流150周年

中東

日クウェート国交樹立50周年

○2012年

アジア

日中国交正常化40周年

日インド国交樹立60周年

日スリランカ国交樹立60周年

日バキスタン国交樹立60周年

日バングラデシュ国交樹立40周年

日モンゴル外交関係樹立40周年

中南米

日ベリーズ外交関係樹立30周年

日アンティグア・バーブーダ外交関係樹立30周年

中東

日イスラエル国交樹立60周年

日オマーン外交関係樹立40周年

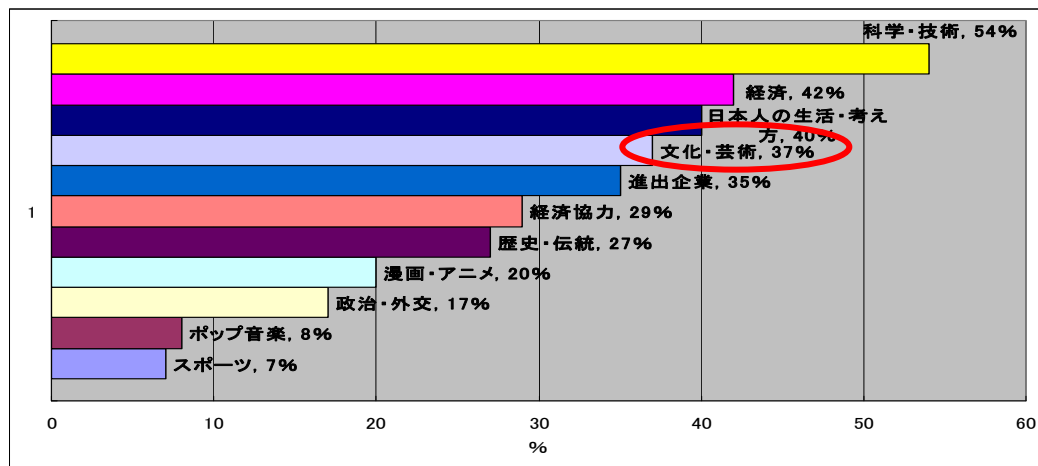
日ア首連外交関係樹立40周年

日アルジェリア国交樹立50周年

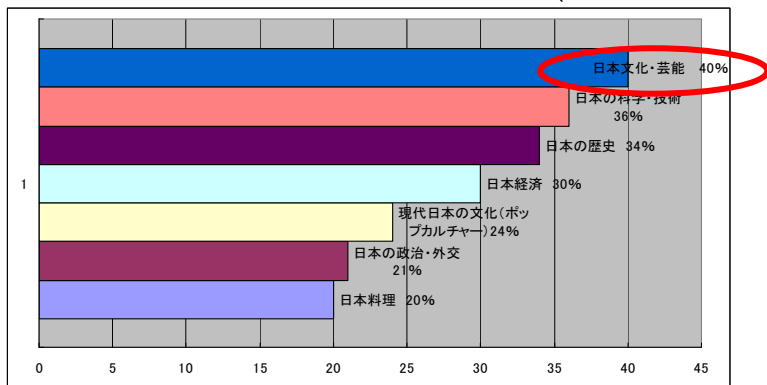
(2) ASEAN主要6カ国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)意識調査結果

(問)日本に関してもっと知りたいと思う分野は？

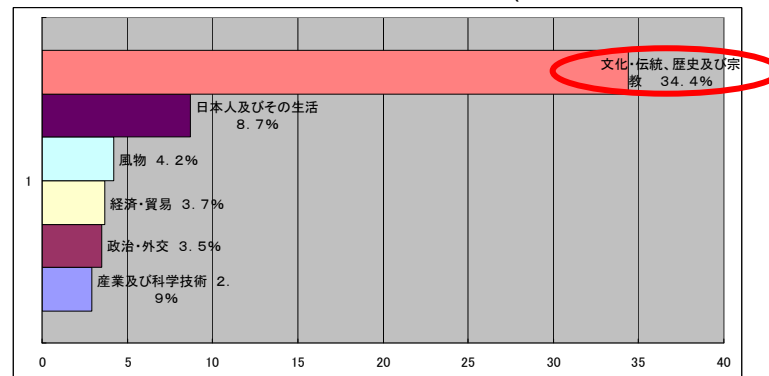
●「ASEAN主要6か国における対日世論調査」(2008年調べ)(外務省実施)より



「EU4か国における対日世論調査」(2007年調べ)



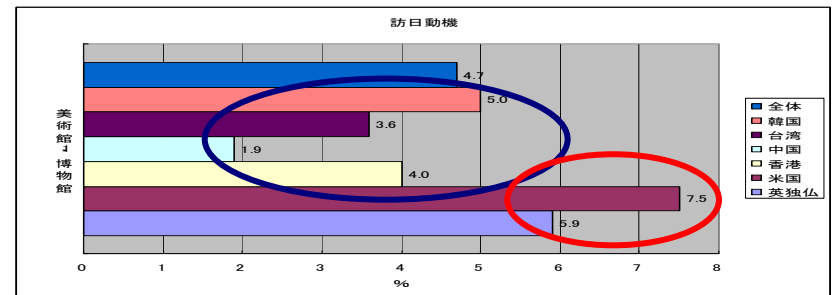
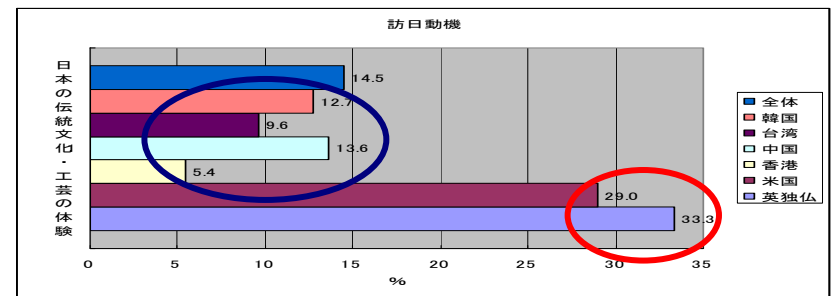
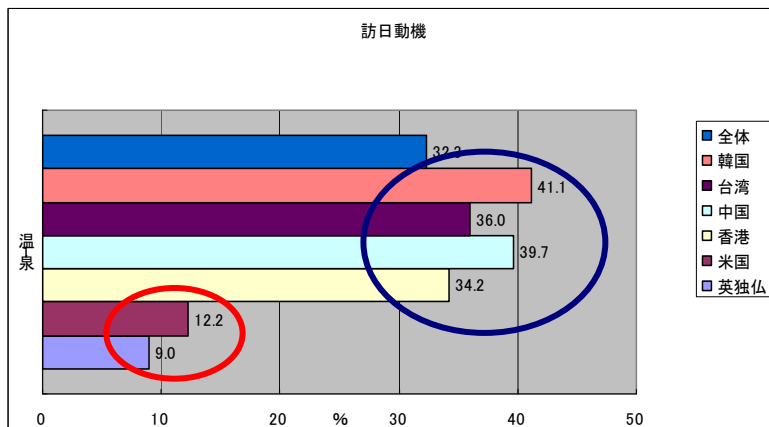
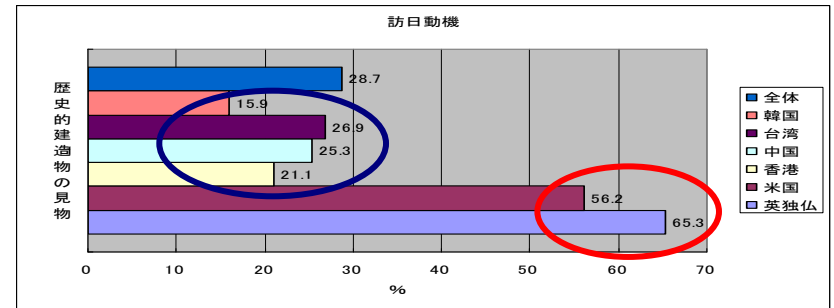
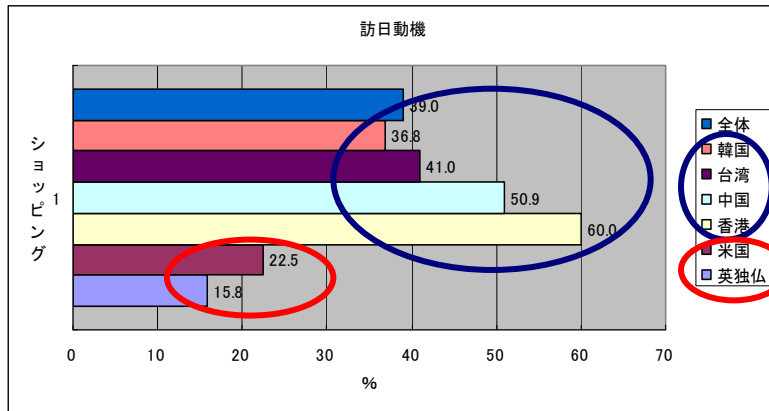
「豪州における対日世論調査」(2005年調べ)



(3) 訪日動機

・アジアからの旅行者においてショッピングや温泉への関心が高い。

・欧米からの旅行者では歴史的建造物、日本の伝統文化体験、美術館・博物館への関心が高い。



(4) 各国で人気の日本文化

(各国在京大使館より聴取)

中国

ポップカルチャー、コンテンツ(アニメ、マンガ、ゲームなど)、日本料理

韓国

アニメ、日本料理・日本酒、J-POP等ポップカルチャー

ミャンマー

武道、日本料理、日本のコスメ

○オーストラリア

若者はアニメ、メディアアートを含む現代美術や文化

○カナダ

料理、版画、現代建築、映画(「おくりびと」はロングラン)

マレーシア

日本料理、盆踊り、テレビのキャラクター(ウルトラマンやドラえもん)

インドネシア

マンガ、アニメ

○フランス

マンガ、アニメ、ゲーム、映画、ファッション

○イギリス

若い世代では電化製品・デジタルカルチャー、マンガ、日本料理(寿司、天ぷら、酒)、ファッション、高年齢層では伝統文化(寺院、歌舞伎等)、日本料理

○ドイツ

柔道や空手などの武道、マンガやアニメ、日本料理(寿司)、年配世代では書道

ts Reserved.

(5) 日本で人気の各国文化

(各国在京大使館より聴取)

中国

伝統文化(漢詩、書道、水墨画、京劇など)、世界遺産、中華料理

韓国

ドラマ、K-POP

ミャンマー

ミャンマーダンス

○オーストラリア

先住民の文化芸術(絵画、演劇を含む)、現代アート、特にメディアアートとバイオアートの分野、現代音楽(ジャズを含む)、子ども向け演劇やパフォーマンス

○カナダ

ニュー・サーカス(シルク・ドゥ・ソレイユ)、ショート・アニメやドキュメンタリー映画、音楽(ポップ、ジャズ、インディーズ)、赤毛のアン関連出版物

マレーシア

民俗舞踊、マレーシア料理、手工芸品

インドネシア

バリ、ジャワ地方の舞踊と伝統音楽(ガムラン)

○フランス

ファッション、食、ワイン、絵画、演劇、音楽などあらゆるジャンルの芸術・文化

○イギリス

英語学習、アート(美術、音楽、舞台芸術、映画)、デザイン、建築、ファッション、スポーツ(サッカー)、アロマテラピー、ガーデニング、紅茶

○ドイツ

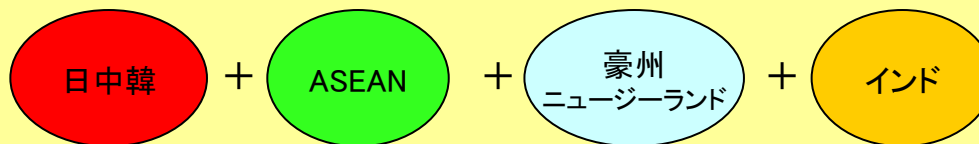
ドイツのクラシック音楽、ソーセージ、バウムクーヘンなどのドイツ料理、ビール、ドイツの城

4. 取組みの視点

基本理念

東アジア地域における文化の多様性を尊重しながら、各国の文化交流を通じ、相互理解を増進するとともに、文化面での東アジア地域の存在感を高める。

東アジア地域範囲



具体的取組

Program

1. 東アジア域内文化交流プログラムの充実

- (例)
- ◆ 東アジアで重点的な事業の実施
 - ◆ 東アジア向け日本文化紹介事業の活性化
 - ◆ 二国間共同事業の推進
 - ◆ 文化交流に関するニーズ調査の実施 等

早急に実施すべく検討

Platform

2. 東アジア文化交流拡大のためのプラットフォーム形成

- (例)
- ◆ 文化担当大臣以下、関係者が協議を行う機会の創設
 - ◆ 東アジアの文化人・芸術家のネットワーク形成 等

中長期的課題として検討

Project

3. 東アジア共同で取り組むプロジェクトの展開

- (例)
- ◆ 域内の特定都市において域内文化事業を集中して実施するプロジェクトの展開 等

取組みを進める際の留意事項

- 関係省庁連携による「オール・ジャパン」としての対応
- 具体的事業の継続的な実施
- 我が国を「売り出す」際のイメージや分野の明確化
(対象国に応じたきめ細やかな対応)